

(令和7)年度

児童館事業年間活動報告書

(京都市百々)児童館

	活動名	実施回数	参加人数										合計	内 容	成 果 と 課 題	
			乳幼児	小1～3年		小4～6年		中学生	大人	ボランティア						
				自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ			中学生	大学生	大人				
子 ど も 育 成 機 能	(2) 工作デー	3	0	5	46	2	2	0	0	0	0	0	0	55	ブラバン工作。	子どもたちは集中して取り組めた。じどうかんだよりで参加を募ったが、参加者の半分は学童クラブ児童だったため、来年度は早めに周知するなどの広報を工夫し、自由来館児童の参加に繋げたい。
	(2) 工作週間	5	0	3	38	0	0	0	0	0	0	0	41	かまぼこ落としの板づくり。	かまぼこ板の回収をさくらdaysにて学童クラブ保護者へ協力を求めて実施。思い思いに絵を描いて楽しんだ。かまぼこ落としの遊びを知らない子が多く、広報では伝わりにくかったため、並行してあそびを教える必要がある。	
	(2) こま週間	12	0	15	126	0	0	0	0	0	0	0	141	検定に向けてこまの技を練習する期間。	ひもの結び方から片付け方、あそび方のルールを事前に伝えることで子どもたちも意識してできた。興味・関心を持っていない子、尻込みしている子に挑戦してみようと思える働きかけが必要である。	
	(2) こま検定	5	0	1	26	0	0	0	0	0	0	0	27	検定表に沿ったこまの技を磨く期間。	検定をきっかけに、さらに上の技を目指して練習にがんばって取り組む姿が見られた。検定を受ける時のルールの徹底や実施する時間など要検討。	
	(2) 千支のはりえ	17	0	8	31	0	0	2	0	0	0	0	41	午年に合わせた貼り絵。	事前に学童クラブ児童には見本を提示していたことで、作成を楽しみにしている子が見られた。一人でも簡単に作れるよう手順と説明文書を工夫したため、職員の説明をききながら1人で作ることができた。千支を知らない子もいたため、千支の説明を最初にしてから取り組むとよかった。	
	(2) エコ活動	13	0	10	304	0	16	0	0	0	0	0	330	花山稲荷公園や中庭の清掃活動、エコ工作。	工作や公園清掃などを通して、子どもたちのエコ意識を高めることができた。今後もエコに関心を持てるような取組を実施予定。	
	(2) あそび体験会	2	0	5	72	0	2	0	0	0	0	0	79	どどじどうかんこどもまつりのあそびのコーナー体験。	子どもスタッフがあそびコーナーの動きを確認したり、子どもたちもあそびコーナーを事前に体験することで、子どもたちの祭りへの意識を高めることができた。	
	(3) 避難訓練	12	0	4	407	7	8	2	0	0	0	0	428	火事や地震、台風を想定した避難訓練や防犯訓練を毎月1回実施。	様々な災害を想定した訓練を通して、場合に応じた避難方法を伝え、実践した。また、防犯訓練ではスクールサポーターにご協力いただき、防犯教室を子どもたちに実施してもらった。避難訓練はなぜ必要なのか重要性を再度説明し、自分で自分の身を守るという意識を高めていく必要がある。	
	(3) 子ども交通安全教室	1			52		8						60	登下館の交通ルールや安全な道の歩き方、自転車の安全な乗り方などについて警察官に話してもらい学ぶ機会の実施。	交通ルールの重要性をスライドを通して学んだ。	
	(3) 七夕取組	3	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	35	短冊に願い事を書いて、飾りつけを行う。	竹に吊っておくことで子どもや保護者、地域の方から見てもらえ、好評だった。竹の劣化が早く、持ってきてもらうのにタイミングを合わせる必要がある。	
(3) こどもスタッフ会議	5	0	14	0	5	0	0	0	0	0	0	19	こどもまつりのコーナー企画と準備物の作成および、当日の司会進行、コーナーの準備と運営、後片付けをする。	参加者がまつりを楽しめることを目標に何度か話し合いを重ね、当日の司会は緊張しながらも進めることができた。地域団体や学童クラブ保護者と協力しながら、あそびコーナーの運営ができ、参加者が楽しんでいる様子を見て、子どもスタッフの喜びや自信に繋がった。		

	活動名	実施回数	参加人数										内 容	成 果 と 課 題	
			乳幼児	小1～3年		小4～6年		中学生	大人	ボランティア					合計
				自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ			中学生	大学生	大人			
子ども 育成 機能	(4) 卓球クラブ	10	1	13	14	6	0	1	1	0	0	11	47	月に1回実施。地域の方に卓球を指導していただく。	地域の方の指導により技術だけでなく、マナーや礼儀の向上に繋がった。また、最終日はシニア卓球の方に来ていただき、多世代交流の場となった。
	(5) 科学実験会	4	0	32	18	4	0	0	0	0	20	0	74	山科にある京都薬科大学ボランティアサークルの学生が身近なもので出来る実験を企画実施。実験会を通して、学生との交流を図る。	毎回楽しみにしてくれている子どもの継続的な参加が見られた。また、今年度からGoogleフォームでの申込みに変更したことで、来館して提出する負担がなくなり、スムーズに参加者を集計しやすくなった。学童児だけでなく自由来館児童の参加が増えるよう情報発信する必要がある。
	(7) 中学生タイム	52	0	0	0	0	0	236	10	0	0	0	246	17:00以降、遊戯室で卓球をしたり、勉強、本読みなどをして過ごす。	夏に中学生に声をかけて以降、継続的な利用があり、公園や青少年活動センター以外の居場所づくりができた。今後は中学生と一緒に行事の展開を進めたい。
	合 計	144	1	110	1169	24	36	241	11	0	20	11	1193		
	子ども育成機能 合 計	144	1	110	1169	24	36	241	11	0	20	11	1193		

*注 基本活動は、指針に基づき(2)遊びの教室活動(3)行事活動(4)クラブ活動(5)地域間交流促進活動(6)障害のある児童の居場所づくりと活動への参加促進(7)思春期児童の活動支援に分類して記入すること。
 推進活動は、指針に基づき(9)地域を知る活動(10)移動児童館活動に分類して記入すること。
 指定活動は、指定児童館のみ別途報告すること。

(令和7) 年度 児童館事業年間活動報告書 (京都市百々) 児童館

	活動名	実施回数	参加人数										合計	内 容	成 果 と 課 題	
			乳幼児		小1～3年		小4～6年		中学生	大人	ボランティア					
			自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ			中学生	大学生	大人					
子 ど も 家 庭 支 援 活 動	(1) うさねこクラブ	40	240	0	0	0	0	0	0	234	0	0	0	474	登録制のクラブで、満1歳から入会できる。体操・お名前呼び・手遊び・読み聞かせと季節の行事や工作などの企画をメインとした取組。	4月当初は登録人数も少なかったが、年会費を無料にして参加への敷居を低くすることで、最終は登録数10組を超えた。乳幼児親子で様々な企画を楽しむことができた。来年度は児童館が小学校内に移転するため、乳幼児親子の継続的な利用と、児童館を利用したことのない子育て家庭への周知・PRが課題。
	(1) トコトコ	41	113	0	0	0	0	0	0	116	0	0	0	229	あそびの広場として、0歳～就学児前の乳幼児親子を対象。自由におもちゃなどで遊ぶ。	登録制にしていないことで、参加への心理的なハードルが下がり、乳幼児親子が気軽に利用する広場となっていた。来年度も継続しての実施。
	(1) ②子育てほっと広場	43	54	1	0	0	0	0	0	49	0	0	0	104	乳幼児親子がいつでも遊べる場所を提供。	日頃来られた時におもちゃなどで遊び過ぎていた。幼稚園や保育園に就園した方が終わった後に来たりするなど、利用方法は様々だった。継続して遊べる場所を提供していく。
	(1) ②ほっとタイム	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	平日の12時から1時の間、昼食の場所提供。	利用はほとんどなく、また周知も不十分だったため今後継続する際はどのような形で行うか検討し、利用者に向けて周知する必要がある。
	(1) 子育てミニ講座&子育て相談会	1	6	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	12	岡崎達也氏を講師として招き、子どもとの楽しいかかわり方についてミニ講座を開催。その後は希望者に向け個別に相談会を実施。	事前アンケートにて保護者が聞きたいことなどを聞いていくことで、アンケート内容を基に話をさせていただくことができた。全体的に話しにくい相談事でも、個別にすることで保護者が相談しやすい雰囲気できていた。来年度も実施予定。
	合 計	126	414	1	0	0	0	0	0	406	0	0	0	821		
	(3) 子育て家庭相談・援助活動			子どもの年齢	件数	受 理 及 び 相 談 経 路				件数	相 談 内 容		件数	つないだ機関等		
			乳幼児 小1～3年(自由来館) 小1～3年(学童) 小4～6年(自由来館) 小4～6年(学童) 中学生 高校生	214	児童館にて直接受理 児童相談所 保健センター 子ども支援センター(子どもはぐくみ室) 主任児童委員 その他 小学校、保育園、幼稚園、こども園、中学校				209	健全育成問題 家庭養育問題 成長・発達問題 教育問題 非行・問題行動 その他 {		214	児童相談所 保健センター 子ども支援センター(子どもはぐくみ室) 幼稚園・保育園 小学校 中学校 総合支援学校 その他{ }			
			件数 計	214	-				214	-		214	-			
子 ど も 家 庭 支 援 活 動	(4) 子育てグループを育成・支援する活動	グループ名		構成人数	活 動 内 容					育 成 ・ 支 援 内 容		成 果 と 課 題				
	推 進 活 動	活動名	実施回数	活 動 内 容							成 果 と 課 題					
	(5) 子育てと健全育成に関する啓発活動	「京都市家庭ごみ有料指定袋無料引換券」の引換	随時受付	ゴミ袋を交換に来られたら、ゴミ袋と児童館の情報紙を渡す。							引き換えに来られる人はまだ少ないので乳幼児親子の新規来館者に声かけをしていきたい。					

※注 基本活動は、指針に基づき(1)乳幼児とその保護者を対象とする活動〔①乳幼児クラブ活動 ②乳幼児の広場活動〕(2) 家族参加を促す活動に分類して記入すること。

	活動名	実施回数	主催	参加人数							連携団体	成果と課題	
				乳幼児	小1～3年		小4～6年		中学生	大人			合計
					自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ					
地域福祉促進機能	(1)地域住民との交流を促進する活動												
	どじどうかんこどもまつり	1	どじどうかんこどもまつり実行委員会	50	64	8	15	0	4	107	248	百々学区自治連合会 百々学区社会福祉協議会 百々民生児童委員協議会 百々地域女性会 山科少年補導委員会百々支部 京都市立百々小学校 京都市立山科中学校 京都市立百々小学校PTA運営委員会 百々学区おやじの会	今年度はあそびのコーナーのみを実施。子どもスタッフと中学生それぞれにコーナーを企画・運営してもらい、作り上げる達成感を味わってもらうとともに、参加者との交流を図ることができた。来年度は児童館の移転に伴い、まつりの実施方法を関係機関と検討し進めていく。
	子育てサロン～親子で遊ぼう～笑ってリトミック	2	百々学区民生児童委員協議会	13	0	0	0	0	0	13	26	百々学区社会福祉協議会	お寺と銀行2階を使って実施された。講師を呼んでリトミックに取り組みされており、参加者からも好評だった。実施場所での参加を悩まれた保護者もいたため、児童館での開催も提案し、来年度も継続し連携を図る。
	子育て支援連絡会 子育て講座	1	百々児童館	4	0	0	0	0	0	6	10	百々学区自治連合会 百々学区民生児童委員協議会 まんいんじこども園	えほん館花田睦子氏を講師に迎え読み聞かせを交えて絵本の選び方や、読み方のポイントなどの講話を実施。次年度は利用者のニーズに合わせた講座を実施し、連携団体へも周知していく。
	シニア卓球デー	41	地域住民	0	0	0	0	0	0	124	124	地域住民	週に1回、卓球を通して、地域住民同士で交流を楽しまれている。3月には卓球クラブ登録児童との交流も実施。来年度も引き続き活動される。
	新春まつり	1	百々児童館	7	29	5	2	0	19	0	62	学童クラブ保護者	カルタや福笑いなどのお正月遊びや、コマ・けん玉・お手玉といった伝承遊びを体験する。自分の好きな遊びに挑戦し、楽しむことができた。
	合計	46	—	74	93	13	17	0	23	250	470		
地域福祉促進機能	(2)ボランティア活動の推進												
	活動内容												
	あそびのボランティア												京都薬科大学の学生が科学実験を通して科学の楽しさを子どもたちに伝えている。地域の方にあそびのボランティアに入ってもらい、子どもたちの日常のあそびと一緒にやっている。
	行事のボランティア												卓球クラブでは地域の方に行事ボランティアに来ていただき、子どもたちにご指導いただいた。
	合計				13	2	15						
地域福祉促進機能	(3)地域との連携を促進する活動												
	連携団体等												
	連携内容												
	成果と課題												
	百々学区自治連合会	運営協力会、ネットワーク会議での情報交換。百々児童館こどもまつりの運営。											まつりや会議等で協力いただくことで、連携を深めることが出来た。
	百々民生児童委員協議会	子育てサロンのサポート、百々児童館こどもまつり当日運営。											
	百々学区社会福祉協議会	児童館だよりの配布、子育て支援連絡会での情報交換。											
	百々学区おやじの会												まつりの要員として連携を深めることができた。
	百々地域女性会												
	百々学区老人クラブ連合会	百々児童館こどもまつりの当日運営。											今年度は連携することが難しくできなかった。
百々小学校PTA運営委員会												まつりの要員として連携を深めることができた。	
山科少年補導委員会百々支部	百々児童館こどもまつり当日運営。子育て支援連絡会等への参加。											会議での情報交換やまつりでの要員として連携を深めることができた。	
山科区子どもはぐみ室	児童館だよりの配布、乳幼児の情報交換。子育て支援連絡会での情報交換。											子育て支援連絡会などを通して連携を図り、乳幼児親子への支援へつなげた。	
まんいんじこども園	児童館だよりの配布、乳幼児の情報交換。子育て支援連絡会での情報交換。												
西野山保育園	児童館だより配布。											おたより配布時に学童児などの情報交換を実施。	
京都市立百々小学校	児童館だよりの全校配布。運営協力会、子育て支援連絡会での情報交換会。運動会・学習発表会・授業参観の見学・情報交換。											児童館だよりを全校配布してもらうことで、児童館の存在や事業のPRができた。また、担任や校長との面談をすることで、連携がスムーズに行えるようになった。	
京都市立山階南小学校	児童館だより配布。											学校情報はおたより等で情報交換を行った。	
京都市立山科中学校	百々児童館こどもまつりの当日運営。運営協力会での情報交換。											まつりでは、生徒にあそびコーナーの企画・運営をもらい、会議では中学生の利用状況などの情報交換を行うことができた。	

		組織名称	構成団体・個人	会議／取組頻度	議題／取組内容	成果と課題	
地域福祉促進	基本活動	(4)児童館を支える地域組織作り	百々児童館運営協力会	年4回	活動計画及び活動報告 地域の情報共有	活動についての報告や行事の内容確認することで、関係機関の情報共有をする場になった。	
		どじどうかんこどもまつり実行委員会	百々学区自治連合会 百々学区社会福祉協議会 百々民生委員児童委員協議会 百々地域女性会 山科少年補導委員会百々支部 百々学区老人クラブ連合会 百々小学校PTA運営委員会 京都市立百々小学校 京都市立山科中学校	年2回	こどもまつりの詳細説明 こどもまつり振り返り	まつりの内容・役割について事前に話し合うことで、まつりを円滑に進めることができた。来年度以降のまつりの実施方法については要検討。	
		百々学区子育て支援連絡会	百々学区自治連合会 百々学区社会福祉協議会 百々民生委員児童委員協議会 山科少年補導委員会百々支部 京都市立百々小学校 まんいんじこども園 山科区子どもはぐくみ室	年2回	各団体・施設の活動報告・共有	子育て家庭支援機能を主とした各団体の意見交換の場となった。また、はぐくみと利用者の共有を図り、支援につなげることができた。	
機能推進活動	(5)地域への施設提供	会場提供・備品貸出等		使用目的	提供先(団体・機関等)	成果と課題	
		場所提供		地蔵盆	花山稲荷町内会	関係作りの一端を担っている。	
	(6)地域調査活動	調査名	調査目的	調査対象	調査主体	調査方法	成果と課題
		幼児クラブアンケート	意見を次回の計画に生かすことが目的	クラブ登録の保護者	百々児童館	アンケート用紙の配布・回収	次年度の幼児クラブのプログラムに反映する。
		児童館利用者共通アンケート		児童館の利用者	京都市社会福祉協議会	アンケート用紙の配布・回収 Googleフォームによる回答	児童館利用者のニーズを理解し、次年度の児童館運営に反映する。
子育て講座アンケート	子育て講座参加者	百々児童館		アンケート用紙の配布・回収	講座の感想や参加者が知りたい内容を聞き、次年度への企画に反映する。		
どじどうかんこどもまつりアンケート	要員である学童クラブ保護者・地域の諸団体	百々児童館		アンケート用紙の配布・回収	まつりの感想や改善点を聞くことができた。次年度以降は児童館移転に伴い、実施方法を要検討。		

(令和7)年度

児童館事業年間活動報告書

(京都市百々)児童館

	広報物の種類	発行頻度	広報対象	広報方法	広報内容	成果と課題
報	児童館だより	月1回	百々小学校、百々学区町内会、民生児童委員、山階南小学校、まんいんじこども園、西野山保育園、はぐくみ室	百々小学校は全児童配布。山階南小学校は校長先生に配布。各町内会は地域回覧。まんいんじこども園、西野山保育園、はぐくみ室に直接配布。HPにて掲載。	館行事、前月の活動報告等掲載	おたよりを見て、行事に参加した声があった。また自治連会議がない月は、地域回覧分を小学校へ持参し、自治連役員より各町内会会長へ配布をお願いした。
	児童館だより（乳幼児版）	月1回	百々学区町内会、民生児童委員、まんいんじこども園、西野山保育園、はぐくみ室	各町内会は地域回覧。まんいんじこども園、西野山保育園、はぐくみ室に直接配布。HPに掲載。	乳幼児向けの行事、前月の活動報告等掲載	乳幼児関係の行事や取組に特化した内容にすることで、よりわかりやすく乳幼児親子へ周知することができた。
	行事のポスター	随時	児童館の利用者	館内に掲示。館前の外掲示板への掲示。町内掲示板への掲示。	館行事・子育て情報の掲載。	掲示板を見て行事に参加される方もいた。
	ホームページ	随時	児童館の利用者	ホームページに掲載。	乳幼児親子向けや小学生向けの行事や、おたよりの掲載。	ホームページに掲載することで、より幅広く広報することができた。
活 動						